優秀賞

SNSを活用した「気づき」を与える広報活動！

～バズらせて※多くの方へ届けたい～

※「バズる」とは、インターネットやSNS上で話題となり、多くの人の注意を集めること。

愛知県　名古屋市消防局

事例類型	Ⅵ 広報活動
取組期間	令和6年4月から

背　景

現代社会において必需品といっても過言ではないスマートフォン、モバイルバッテリー、携帯型扇風機などは非常に便利なものである一方、内部にはリチウムイオン電池が使用されており、一度火災が発生するとわずかな時間で被害が拡大する危険性を伴うものでもある。

実際に過去10年間のリチウムイオン電池が関連する火災件数の増加が顕著となっていた。

そこで、我々が行う予防業務の根幹である火災の未然防止のため、SNSを活用して啓発・広報活動を行うことにしたが、どのようにすれば多くの人に視聴してもらえるかが課題であった。

内　容

動画は名古屋市で実際に発生しているモバイルバッテリーからの出火を例とすることにしたが、視聴回数を伸ばすためターゲット層や動画の尺、視聴者の心に刺さるシチュエーションなどの検討を繰り返し行い、以下の点を工夫することにした。

動画作成にあたり工夫したポイント

①ターゲットを絞った

より広い世代向けの内容にするのではなく、モバイルバッテリーの使用率の高い10代から30代という若年層をターゲットに絞った。

②動画は可能な限り短い時間とする

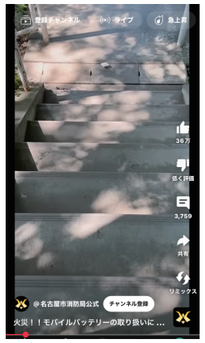
動画が長くなると最後まで視聴してもらえない可能性があるため、テレビコマーシャルで採用されている15秒程度のショート動画とした。

③多くの情報を詰め込みすぎず、危険性に対する「気づき」を与える

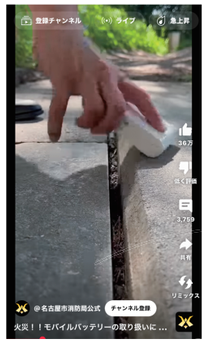
本来、出火に至るメカニズムや取り扱いで気を付けるべき注意点、また、消火方法や廃棄方法などたくさんの情報を詰め込みたいところであるが、どうしても動画時間が長くなってしまうため、モバイルバッテリーは強い衝撃が加わると火災に至ることがあるということに的を絞り、危険性に対する「気づき」を与える内容とした。

伝えきれない取り扱いに関する注意点や廃棄方法などは動画に付随する説明欄に文章で記載することにし、まずは動画を視聴してもらうことを優先させた。

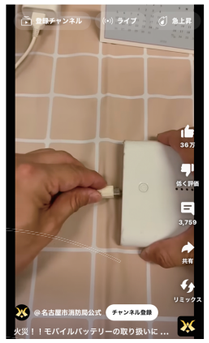
作成した動画の内容



階段でモバイルバッテリーを落としてしまう



それを拾って持ち帰る



自宅で充電する

しばらくすると炎が噴出し始める

動画を視聴してもらうため行った活動

近隣の大学と連携し、昼の休憩時間や下校のタイミングを見計らって学生に対し動画の視聴を促した。

その方法は名古屋市消防局のキャラクターの着ぐるみに二次元コードを持たせ、キャンパスに突如現れ注目を集め、スマートフォンからアクセスし視聴してもらうというもの。

成　果

令和6年6月に公開したこの動画は近隣の大学での啓発時に視聴回数が急増したことから、その後飛躍的に数字を伸ばし、12月現在YouTubeで971万回、Instagramで751万回の計1,722万回、日本にとどまらず全世界で視聴されており、いわゆるバズることができた。

また、多くのコメントも寄せられ、その内容から視聴者に対し危険性に対する「気づき」を与えられたと確信している。

特記事項

最後に、SNSの視聴回数の伸びや寄せられる多くのコメントは啓発・広報活動を行った職員のモチベーションの向上にも繋げることができ、相乗効果を生むことができた。

YouTube
名古屋市消防局
【公式】

Instagram
名古屋市消防局
【公式】